

稚内高校

令和8年度シラバス

衛生看護科 3 年

目次

1. 国語表現	7. 基礎看護学（技術）	1 3. 成人看護（脳神経感覚器）
2. 歴史総合	8. 基礎看護学（看護倫理）	1 4. 成人看護（運動器）
3. 数学 A	9. 人体の構造と機能（栄養学）	1 5. 母性看護
4. 化学基礎	1 0. 人体の構造と機能（微生物学）	1 6. 在宅看護
5. 体育	1 1. 疾病の成り立ちと回復の促進（薬理学）	1 7. 看護臨地実習
6. 英語コミュニケーションⅡ	1 2. 成人看護（腎・泌尿器）	

教 科	国語	科目	国語表現	年次	3	単位数	2	必修	
使用教科書	国語表現（大修館書店）								
使用副教材	国語表現 基礎練習ノート（大修館書店） 漢字とことば 常用漢字アルファ 五訂版（桐原書店）								
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。			論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。		
評価の算出	上記の趣旨をふまえ、定期考査やミニテスト、課題提出状況、課題確認テストを基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、定期考査や課題提出状況、レポートを基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、レポートや発表、課題提出状況、ノート課題の取り組みを基に評価を算出する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	6	【復習】 1 言葉と出会う レッスン1～5			◎	○	○	ミニテスト 各課題提出 定期考査 授業での様子
	5	6	3 小論文・レポート入門 レッスン1・2 小論文を書くために：0. 01 %の水			◎	◎	○	
	6	8	前期中間考査（実施しない予定） レッスン3・4			○	◎	○	
	7	4	小論文を書くために：「再生」は日常生活から レッスン5・6・7			○	◎	○	
	8	4	小論文を書くために：データを読む③～⑦ 前期期末考査			◎	◎	○	
	9	8	4 自己PRと面接 レッスン1～5			○	◎	○	
後 期	10	8	レッスン6・7 自己を見つめる：働く人の姿			○	◎	○	ミニテスト 各課題提出 定期考査 授業での様子
	11	8	後期中間考査（実施しない予定） 5 メディアを駆使する レッスン1～4			○	◎	○	
	12	6	レッスン5・6 メディアを考える：メディアって何？			○	◎	○	
	1	4	【復習】基礎練習ノート 国語基礎力強化ワーク			◎	○	○	
	2	4	後期期末考査						
	3	4							
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
○書けない・読めない・わからない漢字や語句を見つけたら、必ず、自ら調べましょう。漢字や語句の知識は、文章を話す・書く・読むにあたって重要な力です。 ○定期的に漢字や語句のミニテストを実施します。日進月歩です。									

教 科	地理歴史	科目	歴史総合	学年	3	単位数	2	必修	
使用教科書	明解 歴史総合（帝国書院）								
使用副教材	明解 歴史総合ノート（帝国書院）								
科目の目標	近現代を中心とする歴史の変化を、諸資料に基づき、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、社会的事象の歴史的な見方・考え方を培い、グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・近現代の歴史の変化を、日本とその背景にある世界との相互的な関係に気づき、理解できたか。 ・近現代の歴史の変化に関わる疑問の解決に向けて、歴史的資料を適切かつ効果的に利用できたか。			・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、歴史的な概念に基づき考察できたか。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、自らの言葉で表現できたか。			・自らの経験や思考に基づき、近現代の歴史の変化に関わる疑問を立てることができたか。		
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 ・課題の取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物 ・授業の取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料			○	◎	○	課題の取り組み
		1	2部 近代化と私たち 序章			○	○	◎	授業の取り組み
	5	2	1章 江戸時代の日本と結びつく世界 1/2			◎	○	○	定期考査
		2	1章 江戸時代の日本と結びつく世界 3/4			◎	○	○	定期考査
		5	2章 欧米諸国における近代化 1/2/3/4/5			◎	○	○	定期考査
	6	2	3章 近代化の進展と国民国家形成 1/2			◎	○	○	定期考査
		1	前期中間考査			◎	◎	○	
		2	3章 近代化の進展と国民国家形成 3/4			◎	○	○	定期考査
	7	5	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 1/2/3/4/5			◎	○	○	定期考査
		4	5章 近代化が進む日本と東アジア 1/2/3/4			◎	○	○	定期考査
		1	5章 近代化が進む日本と東アジア 5			◎	○	○	定期考査
	8	1	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章			○	○	◎	授業の取り組み
		4	1章 第一次世界大戦と日本の対応 1/2/3			◎	○	○	定期考査
		4	2章 国際協調と大衆社会の広がり 1/2/3/4			◎	○	○	定期考査
		3	2章 国際協調と大衆社会の広がり 5/6			◎	○	○	定期考査
	9	4	3章 日本の行方と第二次世界大戦 1/2/3			◎	○	○	定期考査
		1	前期期末考査			◎	◎	○	
	後 期	10	5	3章 日本の行方と第二次世界大戦 4/5/6/7			◎	○	○
5			4章 再出発する世界と日本 1/2/3/4			◎	○	○	定期考査
1			4部 グローバル化と私たち 序章			○	○	◎	授業の取り組み
5			1章 冷戦で揺れる世界と日本 1/2/3/4			◎	○	○	定期考査
11									
		1	2章 多極化する世界 1			◎	○	○	定期考査
12		1	後期期末考査			◎	◎	○	
		1	2章 多極化する世界 2			◎	○	○	課題の取り組み
		2	2章 多極化する世界 3/4			◎	○	○	課題の取り組み
		6	3章 グローバル化の中の世界と日本 1/2/3/4/5			◎	◎	○	課題の取り組み
3									
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
＜持ち物＞ ・教科書 ・授業プリント（授業プリントをまとめるためのファイルを準備してください） ・筆記用具（なるべくカラフルに） ＜その他＞ ・次の3つの疑問文を大切にしてください。授業者も常に意識しながら説明をしていきます。 ①「どうしてか・何か」 ②「なぜか」 ③「どうなったか」									

教 科		数学	科目	数学A（看護科）	年次	3	単位数	2	必修		
使用教科書		新編 数学A（第一学習社） 新編 数学A サポートブック（第一学習社）									
使用副教材		スタディ 数学A（第一学習社）									
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。			
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②			③
前 期	4	6	第3章 図形の性質	三角形と比				◎	○	◎	取り組み
				三角形の外心、内心、重心				◎	○	◎	取り組み
	5	6		メネラウスの定理・チェバの定理				◎	○	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物
				円周角の定理／円に内接する四角形				◎	○	◎	取り組み
	7	4		円と接線				◎	○	◎	取り組み
			円の接線と弦の作る角				○	◎	◎	取り組み	
	8	4	前期期末考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物
		方べきの定理				○	◎	◎	取り組み		
9	8		2つの円				○	◎	◎	取り組み	
後 期	10	8	第4章 数学と人間の活動	空間における直線／平面の位置関係				○	◎	◎	取り組み
	11	8		約数・倍数				◎	○	◎	取り組み
	12	6		余りによる自然数の分類				◎	○	◎	取り組み
	1	4	後期期末考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物
				ユークリッドの互除法				◎	○	◎	取り組み
	2	4		2進法				◎	○	◎	取り組み
	3	4									
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。											

教科		理科	科目	化学基礎		年次	3	単位数	2	必修	
使用教科書		高等学校 化学基礎 改訂版（啓林館）									
使用副教材		三訂版 リードLight化学基礎（数研出版） 改定版 フォトサイエンス化学図録（数研出版）									
科目の目標		物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。			物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
評価の算出		定期考査 実験・観察			定期考査 実験レポート 単元のまとめ			単元テスト 振り返り			
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②		③
前 期	4	3	第1編 物質の構成と化学結合					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
		1	第1章 物質の構成 [実験・観察]成分元素の検出 ・純物質と混合物 ・物質とその成分					◎	◎	○	実験レポート
	5	9	・物質の三態と熱運動					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
	6	1	《前期中間考査》					◎	◎		定期考査
		6	第2章 物質の構成粒子 ・原子とその構造 ・イオン					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
		5	・周期表					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
	7	10	第3章 粒子の結合 ・イオン結合とイオン結晶 ・共有結合と分子 ・配位結合 ・分子間にはたらく力 ・高分子化合物 ・共有結合の結晶 ・金属結合と金属結晶					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
	8	7	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 [実験・観察]物質量を体感する ・原子量、分子量、式量 ・物質量					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・実験レポート
	9	1	《前期期末考査》					◎	◎		定期考査
	後 期	10	8	・溶液の濃度 ・化学反応式と物質量					◎	◎	○
		8	第2章 酸と塩基の反応 [実験・観察]中和滴定 ・酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・実験レポート
12		1	・中和滴定と塩 ・中和滴定					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
1		1	《後期期末考査》					◎	◎		定期考査
		1	第3章 酸化還元反応 [実験・観察]電池 ・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の利用 ・電池、電気分解					◎	◎	○	単元のまとめ・単元テスト・振り返り
2		7						◎	◎	○	実験レポート
		1	振り返りとまとめ					○	○	○	授業参加
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方											
・毎回必ず教科書、副教材、タブレット端末をもってきましょう。また、忘れ物をした際には事前に申し出てください。											
・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。											
・わからないことはどんどん質問してください。											
◎家庭学習の仕方											
ー予習ー											
・教科書に目を通してどんな内容を学ぶのかを把握するよう努めてください。											
ー復習ー											
・教科書とプリントを熟読して内容を定着させましょう。											
・問題集を解いて、授業を理解できているか確認し、間違えたところを重点的に学び直しましょう。											
わたしたちはたくさんの化学反応に囲まれて生活しています。その原理を理解し面白さに触れていきましょう！											

教 科	保健体育		科目	体育	学年	3	単位数	2	必修	
使用教科書	なし									
使用副教材	なし									
科目の目標	運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。									
評価の観点	① 知識・技能				② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。				グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができているか。			運動に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出	A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。				A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション【1】				○	○	○	小テスト 記録用紙 新体力テスト換算表 記録用紙 縄跳び換算表 記録用紙 長距離走タイム換算表 記録用紙 種目確認・各種テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト
	5	1	体育理論【1】：①スポーツにおける技能と体力				○	○	○	
		2	集団行動【2】				○	○	○	
	6	9	新体力テスト【4】体づくり運動【5】：体ほぐし運動・縄跳び				○	○	○	
		3	陸上競技：長距離走【3】				○	○	○	
	7	8	選択Ⅰ【8】（球技種目①選択） バレーボール、ソフトボール				○	○	○	
		11	カーリング授業【11】				○	○	○	
	8	8	選択Ⅱ【8】（球技種目②選択） サッカー、バスケットボール				○	○	○	
後 期	病院実習のため授業はありません									
	10	14	選択Ⅲ【14】（球技種目①選択） バドミントン、卓球				○	○	○	記録用紙 種目確認・各種テスト
	病院実習のため授業はありません									
	12	2	体育理論【2】：②ライフスタイルに応じたスポーツ ③スポーツを推進する取り組み				○	○	○	小テスト
		1	3	体育理論【3】：④スポーツライフの設計 ⑤諸外国のスポーツを推進する取り組み ⑥豊かなスポーツライフの創造				○	○	○
	2		8	選択Ⅳ【8】 ニュースポーツ （種目：インディアカ、ソフトバレー、シュックボール、ユニバーサルホッケー、アルティメット）				○	○	○
	3									
合計	70									
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用して下さい。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった!、できた!」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。										
◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることを大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。										
◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（ペーパーテスト）を実施します。										
◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。										
◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。										

教 科	外国語		科目	英語コミュニケーションⅡ	年次	3	単位数	2	必修	
使用教科書	FLEX② ENGLISH COMMUNICATION									
使用副教材	FLEX② ENGLISH COMMUNICATION 予習&授業ノート									
科目の目標	Can-Doリストに基づく									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法などを正しく理解し、用いることができる。 ・英語を用いた言語活動を通して実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身についている。			・必要な情報を読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じてとらえることができる。 ・日常的、社会的な話題について、一定の支援や準備を活用すれば、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを詳しく伝えあうやり取りを続けることができる。 ・日常的、社会的な話題について、事前の準備や一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書くことができる。			・外国語の音声や語彙、表現、文法などを正しく理解しようとしている。 ・日常的、社会的な話題について、一定の支援や準備を活用すれば、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを詳しく伝えあうやり取りを続けようとしている。 ・自分の学習に関して見通しを立てたり振り返ったりして、課題を見つけたり、前の自分と比べて何ができるようになったかや、課題を解決するために必要な取り組みについて具体的に考えている。			
評価の算出	・定期考査 ・単元テスト			・定期考査 ・パフォーマンステスト			・パフォーマンステスト ・提出物 ・振り返り			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	6	Lesson5 The psychology of Waiting in Line 行列についての文章を読み、内容を理解する				◎		○	単元テスト、提出物
	5	1	↓							
	5		パフォーマンステスト（日常の待たされる場面について考える）					◎	○	パフォーマンステスト
	6	7	Lesson6 The human Library Human Libraryについての文章を読み、内容を理解する				◎		○	単元テスト、提出物
	1		パフォーマンステスト（ライティング）					◎	○	パフォーマンステスト
			前期中間考査				◎	◎	○	定期考査、振り返り
	7	1	パフォーマンステスト（ライティング）					◎	○	パフォーマンステスト
	3		Lesson7 More Than Just Shelters 坂茂さんについての文章を読み、内容を理解する				◎		○	単元テスト、提出物
	8	4	↓							
9	8	パフォーマンステスト（避難所の案内をしよう）					◎	○	パフォーマンステスト	
		前期期末考査				◎	◎	○	定期考査、振り返り	
後 期	10	7	Lesson8 Infections Diseases and Humans 感染症について文章を読み、内容を理解する				◎		○	単元テスト、提出物
	11	2	パフォーマンステスト（ライティング）					◎	○	パフォーマンステスト
	6		Lesson9 Fashion for Pride サプールについての文章を読み、内容を理解する				◎		○	単元テスト、提出物
	12	1	↓							
	5		パフォーマンステスト（世界のファッションについて紹介する）					◎	○	パフォーマンステスト
	1	4	Lesson10 Larry Page and the Dream of Google 夢を叶えるために大切なことについての文章を読み、内容を理解する				◎		○	単元テスト、提出物
			後期期末考査				◎	◎	○	定期考査、振り返り
	2	4	↓				◎		○	単元テスト、提出物
3	4									
合計	70									
学 習 方 法 ・ そ の 他										
・用意するもの：教科書、ワーク、筆記用具、タブレットP C、A4ファイル（二つ穴が開いて閉じられるもの）。 ・この授業では、皆さんの取り組みを細かい項目にわたって評価しますので、テストだけ頑張る、提出物だけ出す、のではなく全体的にしっかり取り組みましょう。 ・ペアワークやグループワークをたくさん行います。英語でどう表現すればわからないときは、タブレットを活用したり、先生に聞いたりして新しい表現を積極的に身につけていって下さい。										

教 科	看護	科目	基礎看護（技術）	学年	3	単位数	2	必修	
使用教科書	高等学校 看護「基礎看護」〔文部科学省〕								
使用副教材	(1)系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ(医学書院) (2)系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ(医学書院) (3)根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術(医学書院) (4)看護診断ハンドブック(医学書院)								
科目の目標	(1)看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を知ることができる。 (2)よりよい看護の実践をめざして自ら学び、日常生活の援助及び、診療に伴う援助における看護の課題発見に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	看護の基本となる援助を科学的根拠をもとに身につけることができる。			看護援助について対象者の立場に立った視点を持ち、自分の考えを発することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。学習・演習した内容を振り返り、自分の課題を考えて取り組める。		
評価の算出	定期考査や実技・その他(授業態度など)								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	6	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅰ 3章 看護過程展開の技術 【看護過程の構成要素、情報収集（客観的情報・主観的情報）、情報の分析、看護問題の明確化、看護問題の優先順位、看護計画、評価】			○		○	授業の取り組み・定期考査
	5	8	【看護過程の構成要素、情報収集（客観的情報・主観的情報）、情報の分析、看護問題の明確化、看護問題の優先順位、看護計画、評価】			○		○	授業の取り組み・定期考査
	1		前期中間考査			◎			定期考査
	6	6	【看護倫理も加えて指導】			○		○	授業の取り組み・定期考査
	7	6	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅰ 5章 看護過程展開の技術（情報に基づいた援助計画作成）			○	◎		授業の取り組み・定期考査
	8	4	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ 5章 看護過程展開の技術（情報に基づいた援助計画作成・実施・報告）			○	○	○	授業の取り組み・定期考査
後 期	1		前期期末考査			◎			定期考査
	9	2	前期のまとめ			○			授業の取り組み・定期考査
	10	10	【基礎実習の事例を用いて看護過程の展開を実施】				○	○	授業の取り組み・定期考査
	11	6	【基礎実習の事例を用いて看護過程の展開を実施】				○	○	授業の取り組み・定期考査
	12	4	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ 9章 与薬の技術（経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬）				○	○	授業の取り組み・定期考査
	1	5	9章 与薬の技術（経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬） 1 後期期末考査			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査 定期考査
期	2	10	9章 与薬の技術（注射 ※アンプル・バイアル・薬液の吸い上げ実習） 系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ 13章 死の看取りの援助				○	◎	授業の取り組み・定期考査
							○	○	授業の取り組み・定期考査
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・授業は、①机上学習と②校内演習があります。 ・基礎看護技術は、実際に患者に援助をする技術やその根拠を学ぶ教科です。「なぜこうするのか」の理解に努めましょう。 ・技術は授業だけでは身につけません。放課後などを利用して、積極的に学習しましょう。 ・復習が大切です。授業で学んだことをもう1度確認しましょう。 ◎その他 ・前段の生活で看護に関する話題に関心を持ち、看護のあり方について考えることが大切です。 ・校内実習の患者のときは、患者の立場で援助方法とその理由を考え、基礎・基本をもとに状況に応じた援助ができるように心がけてください。 ・専門用語が多く出てきますので、その言葉の意味を調べて理解することが大切です。									

教 科	看護	科目	基礎看護学（看護倫理）	学年	3	単位数	1	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	(1)看護学テキスト 看護倫理(南江堂)								
科目の目標	人間の基本的な人権や権利擁護並びに看護の職業倫理に関する学習を通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に根ざした人間観を育てるとともに、人々の主体的な意思決定の支援やQOLを重視した看護の重要性について認識を深める。また、高度医療における看護職としての使命や生命倫理の問題についても自分の考えをもてるようになる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	看護の本質（看護の意義や役割、対象）について理解する。			看護の本質に関わる課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだせる。			看護の本質を深く理解するために自ら学び、人々の健康の保持増進を目指して主体的かつ協動的に取り組める。		
評価の算出	定期考査・提出物・その他（授業態度、グループワークなど）								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	3	第1章 看護倫理についての基礎知識			◎	○	○	授業の取り組み
	5	3	第2章 看護倫理のアプローチ			◎	○	○	授業の取り組み
		1	前期中間考査			◎	○		定期考査
	6	4	第2章 看護倫理のアプローチ				○	◎	授業の取り組み
	7	4	第3章 看護倫理に関する重要な言葉			◎	○	○	授業の取り組み
	8	3	第3章 看護倫理に関する重要な言葉			◎	○	○	授業の取り組み
	1	【前期期末考査】			◎	○		定期考査	
		9	3	第3章 看護倫理に関する重要な言葉 【臨地実習】			◎	○	◎
	後 期	10	4	第3章 看護倫理に関する重要な言葉			◎	○	◎
11		【臨地実習】							
12		3	第4章 倫理的な意思決定のステップと事例検討			◎	○	◎	授業の取り組み
1		2	1年間の看護倫理のまとめ			◎	○	○	授業の取り組み
		1	【後期期末考査】			◎	○		定期考査
2		3	看護倫理に関する国家試験問題			◎		○	授業の取り組み
合計		35							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・主にプリントを使用した授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をしましょう。医師によるパワーポイントを用いた講義形式の授業にも対応できるようにしましょう。 ◎その他 ・2年生で学習した小児看護の内容を基礎とします。看護学科の他、家庭科などの教科とも関連づけて理解することが大切です。今までに学んできた「解剖生理」や「基礎看護」の学習が基礎となります。又、「母性看護」と関連付けて理解しましょう。 ※ 学習した内容は、専攻科1・2年生で学習する「小児看護学」の基礎となります。又、臨床実習においても重要な知識となりますのでしっかりと理解しましょう。									

教 科	看護	科目	人体の構造と機能(栄養学)	学年	3	単位数	1	必修				
使用教科書	なし											
使用副教材	①系統看護学講座・専門基礎分野・栄養学（人体の構造と機能③）(医学書院) ②系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学（疾病の成り立ちと回復の促進④）(医学書院)											
科目の目標	栄養について体系的・系統的に理解することができる。健康に関わる栄養並びに食生活の基本的な課題を発見することができる。 栄養について自ら学び、栄養の視点から人々の健康保持を目指し、看護への活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。											
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度					
評価の趣旨	栄養素の働き、代謝、食生活と健康に関する内容を理解することができる。免疫や感染に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。					
評価の算出	定期考査・提出物・その他（授業態度、学習ノートなど）											
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法				
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③			
前 期	4	1	1章 人間栄養学と看護			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査			
	5	1	2章 栄養素の種類と働き			◎	○	○		授業の取り組み・定期考査		
	6	3	2章 栄養素の種類と働き			◎	○	◎			授業の取り組み・定期考査	
	7	2	3章 食物の消化と栄養素の吸収・代謝			◎	○	◎				授業の取り組み・定期考査
	8	1	3章 食物の消化と栄養素の吸収・代謝			◎	○	◎				
	1	【前期期末考査】			◎			考査				
後 期	10		4章 エネルギー代謝			◎	○		○	授業の取り組み・定期考査		
	11											
	12											
	1	5										
		1	【後期期末考査】			◎			考査			
	2											
	3											
合計		15										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
◎授業の受け方 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理して下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ◎その他 ・家庭科、生物、化学、解剖生理、成人看護など、他教科とのつながりが多い教科です。各教科で学んだことを統合できるように学習していきましょう。 ・学習した内容は専攻科1年生で学習する栄養学の基礎となります。また、臨床実習等で活用できる知識となります。 ・小テストは必ず事前に予告をするので、しっかりと復習をして臨んでください。												

教 科		看護	科目	人体の構造と機能(微生物学)		学年	3	単位数	1	必修	
使用教科書		なし									
使用副教材		(1)系統看護学講座・専門基礎分野・栄養学（人体の構造と機能③）(医学書院) (2)系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学（疾病の成り立ちと回復の促進④）(医学書院)									
科目の目標		栄養について体系的・系統的に理解することができる。健康に関わる栄養並びに食生活の基本的な課題を発見することができる。 栄養について自ら学び、栄養の視点から人々の健康保持を目指し、看護への活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		栄養素の働き、代謝、食生活と健康に関する内容を理解することができる。免疫や感染に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。			
評価の算出		定期考査・提出物・その他（授業態度、学習ノートなど）									
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②	③	
前 期	4										
	5										
	6	3	系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学	1 章	微生物学		○			授業の取り組み・定期考査	
			系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学	2 章	細菌の性質		○			授業の取り組み・定期考査	
	7	2	系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学	3 章	真菌の性質		○			授業の取り組み・定期考査	
	8	2	系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学	4 章	原虫の性質		○			授業の取り組み・定期考査	
後 期	9	2	系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学	5 章	ウイルスの性質		◎			授業の取り組み・定期考査	
	1		前期期末考査						◎		考査
	10	4	系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学	5 章	ウイルスの性質		◎			授業の取り組み・定期考査	
	11										
	12	4	系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学	1 0 章	感染症の検査と診断		◎			授業の取り組み・定期考査	
	2	2	系統看護学講座・専門基礎分野・微生物学	1 0 章	感染症の検査と診断		◎			授業の取り組み	
合計		20									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ◎その他 ・家庭科、生物、化学、解剖生理、成人看護など、他教科とのつながりが多い教科です。各教科で学んだことを統合できるように学習していきましょう。 ・学習した内容は専攻科1年生で学習する栄養学の基礎となります。また、臨床実習等で活用できる知識となります。 ・小テストは必ず事前に予告をするので、しっかりと復習をして臨んでください。											

教 科		看護	科目	疾病の成り立ちと回復の促進(薬理学)	学年	3	単位数	1	必修
使用教科書		なし							
使用副教材		(1)系統看護学講座・専門基礎分野・薬理学（疾病の成り立ちと回復の促進③）(医学書院)							
科目の目標		(1)疾病と薬物について理解する。 (2)疾病と薬物が心身に及ぼす影響を踏まえ、薬物を扱う看護の役割の重要性について考えることができる。 (3)疾病と薬物について自ら学び、人々の安全を学び、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組むことができる。							
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		薬物の作用と生体の反応に関する内容を理解することができる。		基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。		生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。			
評価の算出		定期考査、提出物、その他（授業態度、学習ノートなど）							
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②	③	
前 期	4	1	第1章 薬理学を学ぶにあたって 薬理学とは何か			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
	5	2	第2章 薬理学の基礎知識 薬物の吸収・分布・代謝・排泄、薬物の相互作用			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
	6	6	薬物の個人差に影響する因子、薬物の有益生徒危険性、向精神薬			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
	1		【前期中間考査】			◎			考査
	7	3	第3章 抗感染症薬 抗生物質、抗真菌薬、抗ウイルス薬、感染症の治療における問題点			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
	8	6	第4章 抗がん薬 癌治療に関する基礎事項、抗がん薬各論 第5章 免疫治療薬（免疫抑制薬）			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
後 期	9	1	第6章 抗アレルギー薬・抗炎症薬 抗ヒスタミン薬、抗炎症薬、関節ウマチ治療薬、高尿酸血症薬			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
	1		【前期期末考査】			◎			考査
	10	6	第7章 末梢神経系に作用する薬物 自律神経系作用薬、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、抗コリン薬			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
	11		第8章 中枢神経系に作用する薬物 パーキンソン症群治療薬、抗てんかん薬、麻薬鎮静薬			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
	1	1	【後期中間考査】			◎			考査
	12	2	第8章 循環系に作用する薬物 降圧薬、狭心症治療薬、抗不整脈薬、脂質異常生薬			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
期	1	1	【後期期末考査】						
	2	4	抗血液凝固薬、止血薬、貧血治療薬			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
	2	4	第10章 呼吸器・消化器に作用する薬物 鎮咳薬、消化性潰瘍治療薬、制吐薬、止痢薬			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
合計		35	第11章 ホルモン薬、ビタミン薬			◎	○	○	授業の取り組み・定期考査
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をしてください。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず確認する、調べる、考えるなどの解決する努力をするようにしましょう。 ◎その他 ・他教科とのつながりが多い教科です。各教科で学んだことを統合できるように学習していきましょう。 ・学習した内容は専攻科1年生で学習する薬理学の基礎となります。									

教 科	看護	科目	成人看護（腎・泌尿器）	学年	3	単位数	2	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	(3)系統看護学講座・専門分野Ⅱ・腎・泌尿器（基礎看護学⑧）(医学書院)								
科目の目標	成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協動的に取り組むことができる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	成人各期と成人看護の特徴に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出	定期考査・提出物・その他（授業態度、学習ノートなど）								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	2	2章 腎・泌尿器の構造と機能 腎臓の構造・排尿のしくみ			◎	○	○	授業の取り組み
	5	6	3章 症状とその病態生理 排尿障害に対する看護			◎	○	○	授業の取り組み
	6	3	4章 検査・治療・処置 尿流動態検査・膀胱鏡、尿路変向術、透析			◎	○	○	授業の取り組み
	7	4	5・6章 疾患の理解・患者の看護 腎・尿路結石・膀胱がん			◎	○	○	授業の取り組み
	8	1							
	9	1	5・6章 疾患の理解・患者の看護 腎不全			◎	○	○	授業の取り組み
後 期	10	2	5・6章 疾患の理解・患者の看護 ネフローゼ			◎	○	○	授業の取り組み
	11								
	12								
	1	1	後期期末考査			◎	○		考査
	2								
3									
合計	20								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ◎その他 ・学習した内容は専攻科1・2年生で学習する成人看護学の基礎となります。また、実習においても重要な知識となりますのでしっかり身につけましょう。 ・成人看護の中の、20時間分が「腎・泌尿器」となります。 ・実施時期は異なる場合もあります。									

教 科		看護	科目	成人看護（脳神経感覚器）	学年	3	単位数	2	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		(1)系統看護学講座・専門分野Ⅱ・運動器（基礎看護学⑩）(医学書院)・(2)系統看護学講座・専門分野Ⅱ・脳・神経（基礎看護学⑦）(医学書院) (3)系統看護学講座・専門分野Ⅱ・腎・泌尿器（基礎看護学⑧）(医学書院)								
科目の目標		成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		成人各期と成人看護の特徴に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出		定期考査・提出物・その他（授業態度、学習ノートなど）								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	6	2章 脳・神経の構造と機能 神経系の分類と機能、中枢神経系、末梢神経系				◎	○	◎	授業の取り組み・定期考査 授業の取り組み・定期考査 授業の取り組み・定期考査 授業の取り組み・定期考査 授業の取り組み・定期考査 考査
			2章 脳・神経の構造と機能 脳・脊髄の保護構造と循環、運動機能と感覚機能				◎	○	◎	
	5	10	3章 症状とその病態生理 意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、自律性のある機能障害、脳ヘルニア				◎	○	◎	
			4章 検査・診断と治療・処置 神経学的診察、開頭術、血管内治療、ドレナージ、V-Pシャント				◎	○	◎	
	6	8	5・6章 疾患の理解・患者の看護 脳梗塞、クモ膜下出血				◎	○	◎	
		5・6章 疾患の理解・患者の看護 脳出血、脳腫瘍				◎	○	◎		
		1	【前期中間考査】				◎			
後 期										
合計		25								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・プリントが中心となり授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をして下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ◎その他 ・学習した内容は専攻科1・2年生で学習する成人看護学の基礎となります。また、実習においても重要な知識となりますのでしっかり身につけましょう。										

教 科	看護		科目	成人看護（運動器）	学年	3	単位数	2	必修
使用教科書	なし								
使用副教材	(1)系統看護学講座・専門分野Ⅱ・運動器（基礎看護学⑩）(医学書院)								
科目の目標	成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。成人看護について、よりよい看護の実践を目指して、自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。								
評価の観点	① 知識・技能				② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	成人看護の中の運動器に関する内容を理解することができる。				基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。	
評価の算出	定期考査・提出物・その他（授業態度、学習ノートなど）								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	
前 									

教 科		看護	科目	母性看護		学年	3	単位数	1	必修
使用教科書		なし								
使用副教材		(1)系統看護学講座・専門・母性学概論（母性看護学1）(医学書院) (2)系統看護学講座・専門・母性看護学各論（母性看護学2）(医学書院)								
科目の目標		母性看護について体系的・系統的に理解するとともに、母性看護の基本となる概念を理解した上で、女性のライフサイクル各期の看護及び周産期における看護に関する知識を知ることができる。よりよい看護の実践を目指して自ら学び、母性の健康の保持増進に主体的かつ協働的取り組む態度を養う。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		母性の概念、母性看護の特徴、女性のライフサイクル各期の健康課題と看護に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出		定期考査、提出物、その他（授業態度など）								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4									授業の取り組み・定期考査 授業の取り組み・定期考査 授業の取り組み・定期考査 授業の取り組み・定期考査 考査 授業の取り組み
	5									
	6	6	系統看護学講座・専門・母性学概論 1章 母性看護の基盤となる概念				○		○	
			系統看護学講座・専門・母性学概論 2章 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状				○		○	
	7	8	系統看護学講座・専門・母性学概論 5章 女性のライフステージ各期における看護				○		○	
			系統看護学講座・専門・母性看護学各論 3章 妊娠期における看護				○	◎	○	
	8	1	【前期期末考査】				◎			考査
	9	1	前期のまとめ				○			授業の取り組み
後 期	10	6	系統看護学講座・専門・母性看護学各論 4章 分娩期における看護				○	◎	○	授業の取り組み・定期考査
	11									
	12	6	系統看護学講座・専門・母性看護学各論 6章 産褥期における看護				○	◎	○	授業の取り組み・定期考査
	1	4	系統看護学講座・専門・母性看護学各論 5章 新生児期における看護				○	◎	○	授業の取り組み
		1	【後期期末考査】				◎			考査
	2	2	まとめ				○	◎	○	授業の取り組み
合計		35								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・教科書中心となり、プリントやタブレットも使用し授業が展開されます。配付された資料はファイルにきちんと整理をして下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。。 ◎その他 ・学習した内容は専攻科1・2年生で学習する母性看護学の基礎となります。また、実習においても重要な知識となりますのでしっかりと身につけましょう。										

教 科	看護	科目	在宅看護	学年	3	単位数	1	必修		
使用教科書	なし									
使用副教材	(1)地域・在宅看護論 総論Ⅰ(南江堂)									
科目の目標	在宅看護の意義・役割などの基本的な理解をもとに、在宅療養者と家族等の安全を守り、治療や健康管理の方法とともに、在宅療養における生活の質の向上に関する知識を身につけることができる。									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	在宅看護の意義、役割と機能に関する内容を理解することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。			
評価の算出	定期考査、提出物、その他（授業態度など）									
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4		1章 人々の営みの移り変わりと医療・看護の現在 （3在宅看護・在宅看護・地域保健活動の発展） 2章 人々の暮らしの成り立ちと健康 3章 地域の暮らしを支える保健・医療・福祉と専門職 【前期期末考査】 前期まとめ						授業の取り組み・定期考査	
	5									
	6	6					○	○		○
	7	8					○	○		○
	8	5					○	○		○
後 期	1		4章 生命（いのち）と暮らしを地域で見守る看護 6章 在宅看護の姿勢・考え方 6章 在宅看護の姿勢・考え方 【後期期末考査】 8章 療養の場の移行支援 （2入退院支援）			◎			考査 授業の取り組み	
	9	1					○	○		○
	10	4					○	○		○
	11						○	○		○
	12	4					○	○		○
合 計		35								
	学 習 方 法 ・ そ の 他									
	◎授業の受け方 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ◎その他 ・学習した内容は専攻科1・2年生で学習する内容の基礎となります。また、実習においても重要な知識となりますのでしっかり身につけましょう。									

教 科	看護	科目	看護臨床実習	学年	3	単位数	9	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	(1)系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②）(医学書院) (2)系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③）(医学書院)・(3)看護診断ハンドブック(医学書院)								
科目の目標	(1)臨床における看護実践の基礎について理解するとともに、関連する技術や援助が分かる。 (2)実施した援助を振り返り、今後の課題を確認することができる。 (3)患者とのコミュニケーションを通して、疾病を抱える患者の気持ちを理解することができる。 (4)保育所内での子どもの日常生活場面を知ることや保育的な働きかけを通し、幼児期の特徴を学び看護の対象理解につなげる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	看護の基本となる援助について、科学的根拠をもとに援助計画用紙を作成し、基本的な援助を実施することができる。			看護援助について対象者の立場に立った視点で物事を考えることができる。科学的根拠をもとに、適切な行動ができる。自らの意見を発することができる。			生徒自ら挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出	実習（実習態度・記録物・自己学習など）・考査								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	4	事前学習の確認、分析の方法、問題点の収集の方法、情報収集の方法、実技練習 【記録内容】データベース、薬剤把握用紙、検査値把握用紙、1日の振り返り、カンファレンス用紙 【実技項目】バイタルサイン、肺音・心音・腹部聴診、環境整備、排泄介助、更衣介助、清拭、体位変換、車椅子の移乗移送、手浴・足浴・洗髪、口腔ケア			○			授業の取り組み・定期考査
	5	8							授業の取り組み・定期考査
	1		【前期中間考査】			◎			考査
	6	8							授業の取り組み・定期考査
	7	8							授業の取り組み・定期考査
	8	8	実習記録の書き方			○	○		授業の取り組み・定期考査
後 期	1		【前期期末考査】			◎			
	9	90	実習オリエンテーション、学生カンファレンス			○	○		授業の取り組み・定期考査
			臨床実習（基礎実習2W、保育実習1W）（臨床実習7時間/日、学校登校日は6時間）			◎	◎	◎	
	10	22	事例展開						授業の取り組み・定期考査
	11	140	臨床実習（老年実習2W・成人看護3W）（臨床実習7時間/日、学校登校日は6時間）				◎		授業の取り組み・定期考査
後 期	12	24	実習のまとめ、反省						授業の取り組み・定期考査
	1	1	【後期期末考査】			◎			考査
合計		315							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・実習の目的が何かしっかりと把握して臨みましょう。 ・実技練習は進んで行ってください。 ・定期考査は学んだこと全般についての知識確認しますので、総合的な復習が必要です。 ◎その他 ・学生らしい態度で臨みましょう。 ・ファイルなど実習に必要なものがあります。オリエンテーションで説明します。 ・体調管理をしっかりとしましょう。 ・事前学習は計画的に行い、準備をしっかりとしましょう。 ・病棟実習においては、2～3人ペアで1人の患者を受け持ち学習します。									